

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題(口演)
タイトル	演劇表現による多職種連携プロセスの模擬体験を用いた IPE の取り組み
日時	平成 25 年 3 月 31 日 11:00～11:10
会場	第 8 会議室
座長	坂の上ファミリークリニック 小野宏志先生
演者	オレンジホームケアクリニック 有賀公恵先生
企画趣旨	<p><研究背景></p> <p>医療現場では、様々な専門職が協働する「専門職連携実践 (IPW)」が重要である。特に「その人らしさ」を重視する在宅医療では、患者の想いを支えるため、在宅ケアチームとして関わる。その際、多くは所属組織が異なるため、チームの方針が統一されていない場合、問題発生時に混乱が起こることも少なくない。これを解決するには、専門職が相互理解するための実践的なコミュニケーションスキルが必要である。当院では専門職連携実践研修に力を入れており、その取り組みの紹介と参加者からの反応を報告したい。</p> <p><方法></p> <p>ケアマネジャー、医師、ヘルパー、訪問看護師、薬剤師といった多職種混合の模擬在宅ケアチームを参加者で構成する。模擬事例についてグループワークを用いて問題解決を図り、チームの代表による全体発表を行い、気づきを共有した。演劇表現を導入し、模擬事例に臨場感を出し、在宅ケアチームの一員である立場で問題解決に取り組めるよう工夫した。</p> <p><結果></p> <p>参加者から、「他専門職と話をすることで、主体的に考えることができた」、「自分に見えない視点も多いという発見があった」「お互いに相談できる関係づくりになった」など肯定的な感想が挙げられた。グループワークでは、他専門職の発言に対して、わからない部分を尋ね、理解しようとする発言が見られた。演劇表現に関しては、病状や家族構成の理解だけでなく、心理的社会的な課題や、居宅内でのリスク要因についても多角的な意見が挙がり、他の職種にとって新たな気づきを与える場面が見られた。</p> <p>(開催テーマ、アンケートの結果は当日発表)</p> <p><考察></p> <p>「他の職種が持つ専門性や役割の理解」「ケア方針統一のための課題整理」を体験することにより、その重要性和方策を理解する上で効果的な動機づけとなったと考えられる。研修自体が、参加者の顔の見える関係づくりの場となっており、その点においても効果があったと考える。</p>